

令和 4 年度第 1 回コーディネーター部会の協議報告について

1 実施日

令和 4 年 8 月 1 7 日（水）

2 令和 3 年度のまちづくりコーディネーター（以下「まちコ」という。）の活動報告

(1) 令和 3 年度の活動実績

ア 派遣

まちづくり活動の現場へ赴き、企画会議や講座におけるファシリテーションの他にイベントの取材活動などを行う。

《令和 3 年度実績 6 件》 ※令和 2 年度実績 7 件

派遣依頼元	派遣内容	人数	出勤回数
自治会	住民会議のファシリテーション	2	2
市	コーディネーター部会に係るヒアリング（スポーツ推進委員）	1	1
	コーディネーター部会に係るヒアリング（刈谷西部地区自治会）	2	1
その他団体	実行委員会のファシリテーション（ワールド・スマイルカーテンーツ木）	2	1
	全体会のテーブルファシリテーション（刈谷駅周辺連絡協議会）	2	1
	地区紹介パネル作成に係る取材	5	4
合計		14	10

イ まちコゼミ

まちコ同士の情報共有や活動検討の場として毎月一回開催していた定例会の代わりに、令和 3 年 7 月よりまちコ世話人の守随さん、大野さん、塚本さんが、ゼミを開催している（令和 4 年度からは大野ゼミ、塚本ゼミの 2 つ）。

	令和 3 年度
守随ゼミ（ファシリテーション）	5 回
大野ゼミ（オンライン支援）	8 回
塚本ゼミ（広報）	3 回

ウ 交流会

まちコ同士の交流やスキルアップを図るための場として、例年、年2回開催している。

<<令和3年度実績>>

令和3年度	内容	参加者
11月27日	まちコ活動収穫祭 (活動情報や経験の共有等)	9人
3月5日	守随さん最終ゼミ&感謝をお伝えする会	14人

(2) 令和4年度の活動状況等

ア 派遣

ワールド・スマイル・ガーデンーツ木実行委員会、中部地区社会福祉協議会、刈谷市自治連合会、刈谷市長寿課より、それぞれファシリテーションの依頼があった。昨年度に比べ、年度初めの依頼が多い。

イ まちコゼミ

大野ゼミ：オンライン支援について

塚本ゼミ：まちコ活動フォローアップについて

概ね2か月に1回（大野ゼミは9月から月1回）開講している。

ウ 交流会

まちコ同士の交流を深めることに重点を置き、それぞれのまちづくり活動の報告や、まちコゼミの受講状況などを話し合う場としたいと企画している。

エ まちコ育成講座『つなぎの学び舎・実践編』

コース名	日程等
みんなの対話お助け隊コース	6月5日（日）より月1回・全5回
まちづくり活動お助け隊コース	10月1日（土）より月1回・全5回

オ 広報

7月開催の自治連合会議にて、10月1日（土）から開講する『つなぎの学び舎・実践編 まちづくり活動お助け隊コース』のお知らせをした。

また、8月5日（金）に開催した『自治連合会・公民館連絡協議会合同研修会』では、講師に元世話人の守随純子さんをお招きし「めざそう！楽しい

まちづくり」をテーマに講義頂いた。その中で、地区や公民館活動に積極的にまちづくりコーディネーターを巻き込んでほしい旨を伝えて頂いた。

3 コーディネーターのネットワーク化について

(1) 経緯

平成21年度の推進委員会を経て、コーディネーターの育み方としてまとめられた3つの方策うちの1つである「まちコのネットワーク化」についてはこれから着手することになっている。地域には「コーディネーター」と呼ばれていなくても、すでにそうした役割を担っている人たちが存在している。そこで、コーディネーターという役割がより地域で認知され、力を発揮できる状況をつくることをねらいとして、登録された「まちコ」以外の様々なコーディネーターを顕在化し、ネットワーク化する方策について検討することとしてきた。

(2) 連携していきたいコーディネーターやコーディネーターを抱える組織

- ・刈谷市自治連合会
- ・刈谷市女性の会連絡協議会
- ・刈谷市子ども会育成連絡協議会
- ・刈谷市いきいきクラブ連合会
- ・民生委員・児童委員
- ・市民ボランティア団体
- ・NPO法人
- ・企業
- ・スポーツ推進委員
- ・地域学校協働活動推進員

(3) 予定

令和3年度に「スポーツ推進委員」「西部自治区」のヒアリングを行ったため、今年度は(2)に記載の組織のうち、それら以外にヒアリングを行う予定である。

4 市民が参加する会議等について

共存・協働のまちづくり推進基本方針に基づき、行政サービスへの市民参画を進める中で、施策立案や事業計画に際して市民が参加する機会の充実を目指している。そのため、参加者を制限せず市民であれば誰でも参加できる会議等の実施状況について庁内各課に調査を行った結果をまとめ、報告した。

令和 4 年度第 1 回夢ファンド部会の協議報告について

1 実施日

令和 4 年 6 月 22 日（水）

2 これまでの実施事業および寄附金実績について

(1) 実施事業について

「まちづくり活動支援事業」のうち、特徴的な活動についてスライド資料をもとに紹介した。

(2) 寄附金について

毎年度 30～40 万円程の寄附をいただき、マッチングギフト方式により市から同額を寄附することにより、60～80 万円が基金に積み上げられる。今年度は、ふるさと納税による寄附が増えており、例年に比べ寄附額が増える見込みである。

(3) 主な意見

(令和 4 年度ふるさと納税による寄附金が 60 万円の見込みと報告されたが、) 実際に 60 万円見込めるのか。

→現状月 5 万円程度入金があり、年に換算して見込んだ額である。ふるさと納税による寄附がウェブサイトから可能になり、寄附金の使い道の選択肢の一つ目に「市民活動支援事業」がある。

3 令和 4 年度募集要項等について

(1) 内容

まちづくり活動支援事業補助金について、以下 2 点の変更を提案。

【変更点 1】「同一事業 2 回まで」→「1 団体につき原則 2 回まで」

新規事業であれば同一団体による 3 回目の応募は可能で、基本的な方針の変更はない。3 回目以降の申請の場合、事前相談を必須とする。相談対応を通じて、あらかじめ対象となるか確認でき、新規提案へつながる可能性を見出す機会ともなり、まちづくり活動の実践を後押しする。

【変更点2】必要書類に「団体規約」を追加。

補助金の交付にあたり、申請時の一過性ではなく組織として継続できる体制にあることを確認する。

(2) 主な意見

賛否両論はあるが、補助金に依存する団体の考え方に問題があるように思う。募集説明会ではホップ・ステップ・ジャンプの仕組みは伝えているので、回数制限があってもよいと考える。

→2点について変更することに決定した。

4 まちづくりびと支援事業補助金の運用・制度、活用拡大について

(1) 広報に関する新たな取り組み予定

ア まちコヘメール配信

イ 庁内の研修等で案内

ウ SNS活用：twitter リツイート回数を増やし、見られる機会を増やす。

(2) 主な意見

市民団体の方がらしを見て、自分に関わりがあると思ってもらうことが大切である。自分の活動と研修が結びつかない団体があると思われるため、有料講座や資格取得などに対して学びにいくチャンスであると知ってもらえるような表現ができるとよい。

令和4年度 市民協働事業の進捗状況について

	事業名	概要	実施内容
1	共存・協働のまちづくり講座 (学習編)	共存・協働のまちづくりを進めていくため、市民と行政が協働を進めていく上での考え方と、行政の対応の仕方について学ぶ。	(1)受講者数：入庁3年目の職員等 39人 (2)大野裕史氏に、「協働するとはなにか」について市職員の立場や役割を鑑みながら講義をしていただいた後、市職員より「共存・協働心得帳」について説明した。 (3)地域づくりコーディネートゲームを使用し、限られた資源や条件をつかって、どうやって目的に対して物事をコーディネートしていくかを考えるグループワークをした。
2	かりや衣浦つながるネット	刈谷市、知立市、高浜市、東浦町間の市民活動情報サイトで、イベントや団体に関する情報の閲覧、参加者やボランティアの募集・申込等ができる。	今年度、つながるネットがリニューアルされるため、現在システム会社がサイトの更新作業をしている。リニューアル後にはサイトの操作方法が変わるため、団体向けの操作説明会を開催する。 10月16日(日)刈谷市主催の団体交流会にて、定住自立圏内のボランティア団体が交流を深めた後、参加団体を同日開催の福祉健康フェスティバルに案内し、刈谷市の福祉関係の団体活動について知ってもらった。また、フェスティバルの来場者につなぐるネットを広報した。
3	協働のまつり場	市の施策に関して、市民・地域団体・市民活動団体等と行政が意見交換する。	令和3年度に全庁を対象に行ったアンケート(市民協働診断)の結果をもとに、複数の課に対してヒアリングを実施する。

共存のまちづくりの取り組みについて

「共存」とは・・・

年齢・性別・国籍・障害の有無といった一人ひとりの違いや、さまざまな考え方・活動・組織の存在を認めあって、多様性を大切にすることを示しています。

1 なぜ、「共存・協働のまちづくり」となったか？

「協働」が Partnership の訳語として生み出されるようになったが、Partnership は「状態」を指す言葉。対して、「協働」という訳語は「do＝動作」を指す言葉である。そのため、例えば『寝たきりの高齢者』は『市民との協働』の対象に入らないのでは？という誤解を生みかねない。そこで、Partnership の原義に近い「共存・協働」を採用した。

→存在そのものが大切であることを示すため。

昇先生の冒頭寄稿を元に

2 基本方針では、「共存」はどのように記されているか。

- ①高齢者・子ども・外国籍市民・障害を持っている人は、サービスを受ける側に回るだけでなく、暮らしにくさを感じた経験を活かして、課題を発信しサービスを提供する機会を持つことができます。人は皆かけがいのない存在であることが意識され、生きにくさを生きやすさに変えることができるまちとなっています。

第1部 2-2「共存・協働のまちづくりがめざす市民やまちの姿」 p8

- ②団塊シニア・青少年・外国籍市民・障害者など、多様な住民が力を発揮できる機会を設け、いろいろな意見を取り入れながら活動を行う ～めざしたい地域団体の姿～

第1部 3-2「共存・協働のまちづくりの主体に求められる姿勢」 p16

- ③高齢者・子ども・外国籍市民・障害を持っている人など、誰もが地域の活動に参加・貢献しやすくなるように、活動現場での運営や企画を工夫します。(例：地域活動のモデル事業)
～(2)まちづくりの活動への多様な市民の参加を広げます～

第2部 2-1【人材育成】多くの市民が参加し、交流し、育ちあう循環をつくる p24

- ④高齢者・外国籍市民・障害を持っている人など、社会との接点が少ない一方で、支援を必要とする人に必要な情報が届く方法を検討します。同時に、「支援がほしい」という人からの情報を把握し、支援する人や団体とマッチングする情報循環の仕組みを充実させます。

～(3)必要な情報が必要な人に行き交う仕組みをつくります～

第2部 2-2【情報】生きた情報がめぐり、参加と知恵を生み出す仕組みをつくる p28

- ⑤子育て世代や高齢者・障害を持っている人などの意見を聴き、誰もが使いやすい施設になるよう検討します。(例：ユニバーサルデザイン)

～(3)利用者の声を反映し、「自分たちの施設」として愛着を持てるようにします～

第2部 2-3【場所】ひとが集い、活動やつながりが生まれる場をつくる p30

3 これまでの事業でどのように取り組まれてきたか？

ア「つなぎの学び舎」で受講生がテーマに設定（抜粋、文言は若干編集）

- ・ポッチャで障がいを持つ人たちとつながりの輪をつくる
- ・外国人の生活を支援するための日本語教室
- ・シングルマザーの家庭がクリスマスを楽しめるイベント
- ・孤独死や買い物難民をなくす
- ・こころの病への理解を深める
- ・認知症の介護者サポート

イ「しゃべり場」での話し合うテーマに設定（参加者が当日テーマを提示する方式もあり）

- ・誰もが集える場所づくり ～世代・国籍・障がいの有無を越えて～
- ・支え合い・助け合いのまちづくりを進めるには ～ヘルプマーク等～
- ・障害のあるひともない人も一緒にファッションショー
- ・高機能広汎性発達障害への理解を啓発
- ・外国籍の子どもの教育
- ・国籍を超えた近所づきあい
- ・高齢化を支え合える仕組み
- ・定年後も社会貢献ができる支え合いのまちづくり

ウ 誰もが使いやすい施設 かりや市民ボランティアセンターの工夫例

- ・子育て中の方も使いやすいように 子ども用クッションマット、ベビーベッド
- ・高齢者も使いやすいよう 老眼鏡、ひざかけの貸し出し
- ・トイレの工夫 女性生理用ナプキンのぐるぐるボックス（相互扶助的に補充）
病気・障害をお持ちの方のサニタリーボックス
- ・車いすでも見やすいように掲示物の高さを配慮
- ・筆談用のコミュニケーションボード

エ 「まつり場」で、市民と行政と意見交換

- ・刈谷 GOGO ウォーキング大会
 - 子ども連れでも楽しめるショートコースについて
 - 障がい者が参加しやすいように；パラスポーツ、呼びかけ方、サポート体制

オ「かりや夢ファンド」による資金サポート

年度	団体名	事業名	事業目的・事業概要等
H25	NPO法人 くるくる	刈谷市民、みんなで クリーンサポート！！ Inわんさ か祭り	刈谷市の公園等の清掃を市から委託で行っている。取組を地域の方に広く知ってもらい、市民と <u>障害のある方</u> が触れ合う機会とすることで、市民の福祉に対する考えを啓発するとともに、障害のある方の活躍の場、働く場につなげる。
H26	ふれあい 広場幸	認知症講演会と 交流会	見守り・安全を地域で実践する中で、 <u>軽度認知症</u> の方が困っている声をうけて、集まる場所として交流会を開催する。同じ悩みを持つ方の相談窓口を設けたり、介護に従事する事業者・家族の心の健康を保つことにつなげる。
H26	らっこちゃん 親の会	「ありがとう」を言 ってもらえる自分を 探そう～子らっこ親 らっこ勤労体験～	子ども達が地域の一員として <u>発達障害</u> の有無にかかわらずコミュニケーション力を育て自己肯定感を持てるようになるようにボランティアの入口をつくる。 「働く」ことの喜びを子どもたちが体感することを目的とし、また活動により発達障害についての理解を地域に促す。
H27	西三河在宅 介護センター	カフェふるさと	地域で暮らす <u>認知症</u> の方に対して住み慣れた地域で認知症になっても安心してまちで暮らしていくことを目的にカフェを開設する。コミュニティカフェとして、認知症の方に限らず一般の方、地域のボランティアの方も利用を促す。
H27	任意団体 NEXT E	パラリンピック正式 種目のボッチャを体 験しよう！	ボッチャの体験会の開催を通して、 <u>障がい者</u> と触れ合う機会をつくることで障がい者福祉の啓発、当事者と家族の積極的社会参加を促進する。
H28	NPO法人 ぎふと	発達障がい児・者に 対する防災（啓蒙編）	<u>発達障がい児・者</u> が有事の際に不安等最小限に抑え、その後の生活を円滑にすることができるよう支援する。また地域の一員としての役割もなうことができるような防災活動をすること、それを地域の方に理解し受け入れていただくことをねらう。
H28	認定NPO法人 パンドラの会	発達障がい者当事者 交流会&企業への発 達障がい者理解促進 事業	<u>発達障害</u> について社会的な理解が進まない中、生きづらさを抱えたまま引きこもっていたり、就労はしながらも企業内での孤立に悩むなどの問題がある。発達障害者がもっと生きやすい社会になるよう、当事者及びその他の人たちへの理解を深めることを目的に「働きたい人のワークショップ」の開催等に取り組む。
H28	防災ママ かきつばた	「乳幼児親子のため の地震防災絵本プロ ジェクト」	乳幼児親子を対象にした地震防災が学べる絵本の製作。ママや特別なニーズがあるお子さんも学べる内容（すべて <u>外国語</u> に翻訳、特別なニーズ（ <u>障がい、アレルギー、外国籍</u> など）とする。
H29	三河サポート グループ アクセル	自立生活 プログラム（ILP）	自立支援プログラムは、 <u>障がい</u> のある人が自立生活に必要な技術を学ぶこと。ボランティアの参加を求めることにより、まち全体では障がいの理解が進む。障がいのある人もない人も、誰もが住みやすいまちになる。

※障害・障がいなどの表記については、団体から提出された資料等に基づいたため統一していません。

カ 市内にある活動団体例（かりや衣浦つながるねットから抜粋）

分野	団体名	活動内容等
障害者	あゆみの会	車いす利用者の自立支援と交流を図る活動を行っている。また、車いす利用者の自立支援と交流及びパラリンピック公式協議であるスポーツ「ボッチャ」の普及を図るため、毎月体育館で「ボッチャ」を行っている。
	ぴゅあハウス	刈谷手をつなぐ育成会が運営。知的障害のある人たちが地域社会で生活していく力をつけるため、行政（県や市）の援助と地域や学生ボランティアの協力を受けながら、自立を援助する。ボランティアとして知的障害者が街中へ出かける練習や社会生活への適応訓練などを手伝っている。
外国人	ワールド・スマイル・ガーデンーツ木	一ツ木町にあるワールド・スマイル・ガーデンというコミュニティガーデンを拠点とし、農作業を通じた多文化共生を目的に、地域の日本人と外国人が、毎月の合同作業や定期的に行われるイベントを通じて交流を行っている。
	SBK (フィリピン人コミュニティ)	フィリピン人からの相談にのり、必要に応じて相談先の紹介や同行をする。また、日本を含む他国人向けにフィリピンの料理教室を開催したり、習慣・国民性を写真・ビデオなど見て分かる方法で紹介する。
	VNK (ベトナム人コミュニティ)	刈谷市在住の日本語が分からないベトナム人に対して、病院や行政手続きのサポートを行っている。また、日本で育ったベトナムの子供たちにベトナム語を教えている。
引きこもり	特定非営利活動法人 ぶらっとほーむ	不登校、引きこもりをはじめとした生きづらさを抱えた子ども、若者とその家族に対する相談、居場所づくり、支援者研修などを行っている。
	ぼかぼかかい	不登校の児童、生徒、引きこもりの青年を支援したいと思う人たちが集まって、活動を開始した。児童、生徒や家族からの相談、交流会の開催、相談に伴う関係機関の紹介などの活動をしている。
高齢者	ひだまりサロン	地域福祉の一つとして恩田町、青山町、新田町のひとり暮らしの高齢者が気楽に集うことのできる場づくりをしている。年3回、健康体操や講座、手芸、音楽など、お茶を飲みながら楽しいひと時を過ごしてもらい、高齢者の交流の場として利用してもらっている。
	特定非営利活動法人 我がまちの縁側	駄菓子屋「紙ふうせん」を併設した高齢者デイサービスセンター「だいふく」を運営。他事業として高齢者生きがい支援事業・まちづくりサポート事業・地域住民交流スペース事業などを行っている。